

明治二十一年（一八八八年）に、栄富尋常小学校をすぐれた成績で卒業すると、伊策は、もつと勉強を続けたいと考え、小学校の太田先生に相談をもちかけました。

「それでは、夜でもよかつたら、私の家に来なさい。」

といわれて、伊策は、昼間は山や畑の仕事をしながら、夜になると、夜学に通うようになりました。

安張から倉谷まで、毎晩通って勉強を続けることはたいへんでした。小学校に通っている時は、友だちといっしょの昼間のことでしたが、夜学になると、たった一人で暗い山道を通わなければなりません。昼間の仕事の疲れで休みたくなつたこともありました。

帰り道は、またたいへんでした。倉谷から水抜までは、道路ぞいに何げんかの家のあかりもありますが、水抜から安張までの約二キロの山道は、家のあか